

「岩ガキと銀カレイ」

秋田から庄内空港にレンタカーで帰っていると、「岩ガキ」の幟に魅せられふらっと立ち寄った『道の駅鳥海 ふらっと』。ここはフードコート、食堂、ラーメン屋、ベーカリー、鮮魚直売所、農産物直売所、お土産、とかなりバリエーション豊富な道の駅だ。幟に魅せられた通り何と言っても6月から8月中旬までのまさに真夏が旬という、この地域の岩ガキは最高に旨い。旨さの秘密は、雄大な鳥海山の伏流水が沖合に湧きだしていることから、ミネラルを多く含んだ伏流水とプランクトンで育った岩ガキだからだ。また漁期が極めて短い上に、漁獲個数も厳しく制限し、1日あたり一人150個と決められ大切に資源を守っている。

殻を割ると、身はぷっくりと粒は大きく、味も濃い、けれど臭みは全くなく口に含むとかなりの重量感と共に少しの甘さを伴って、レモンの酸味と清々しい磯の香りがいっぱい広がる。まさにこれぞ旬の醍醐味！真夏の至福だ。

これだけ岩ガキの旨さを力説しながら、実は鮮魚直売所に入って目を見張ったのは脂が滴りながら焼かれていた『銀ガレイ』350円だ。



丸々と太ったカレイの胴体を輪切りにして、肉厚といい、脂の乗りといい、焼き加減を含めてとにかく凄く美味い！このカレイの美味さには一口で分かった。下処理もよく、独特の生臭さも感じられない。これを食べなかったら後悔していたところだった。こちらに来られた際、是非食べていただきたい逸品。



お薦め度 岩ガキ：★★★★☆ ・ 銀カレイ：★★★★☆



なんの日

幽霊の日・・・文政8年7月26日に鶴屋南北作の『東海道四谷怪談』が江戸・中村座で初演されたことに由来。
ポツダム宣言記念日・・・昭和20年7月26日に、日本に降伏を迫る「ポツダム宣言」が発表されたことに由来。当初日本はこれを黙殺したが同年8月14日に受け入れて終戦した。

毎日うだるような暑さが続いていますね。体調管理に気をつけていてもなかなか大変だと思いますが、みなさんががんばりましょう！



粉体塗装

「其の二」

技術関連の記事も大事ということで今回は新たに導入する「粉体塗装」について簡単に書こうと思います。インターネットの普及により簡単なことは調べられるようになったので抜粋しながら書きたいと思います。

粉体塗装（パウダーコートとも言われる）の工法を大きく大別すると「静電乾式吹き付法」と「流動浸漬法」があります。塗料を材料に吹き付けるか材料を塗料に漬け込むかの違いです。今回は当社の採用した「静電乾式吹き付法」についてです。

これまでの塗装との違いは塗料にあります。これまで行ってきた塗装は顔料をシンナーなどの有機溶剤で溶いて吹き付けます。「静電乾式吹き付法」はその名の通り材料に粉を吹き付けます。静電ガンという装置で電荷を帯びた粉体を材料に噴霧し静電気で付着させます。

その後約200℃の炉で焼付けます。このとき粉が溶け化学反応し固まる理屈だそうです。

焼き上がって熱が冷めると即部品の組み付けが可能です。またシンナーなどの溶剤を使わないので人や環境にも優しいとのこと。溶剤系塗料は余った場合や吹き付け時、材料に付着しなかったものはロスになります。粉体塗装の場合は再使用可となります。さらに、粉体塗装の特徴としてこれまでの塗装に比べ膜厚が厚く耐久性にも優れます。

身の周りの使用例では、道路標識やガードレール、洗濯機、公園の遊具にも用いられているそうです。耐久性、耐候性の高さが伺えますね。また調べるうちにバイクのフレームやホイールなども粉体塗装を行う事があるようです。いつか私のバイクのフレームが炉に入る日が来るのかもしれませんが（笑）。次号へ続きます。



静電塗装法の工程

